

大規模運営と地域連携で 農地を 守る。

中山間農業複合経営拠点組織

の取り組み

3 団体紹介

危機的状況を打開する新組織
4台の乾燥機が並ぶライスセンター。刈り取られたもみが次々に軽トラで運び込まれます。当センターを運営するのは、影野小学校区の農地を守る一般社団法人四万十農産（現在5つ）の集落営農組織が集合し誕生。当時、複数の集落営農組織で構成された法人は県内初でした。いかにこの地域が将来の「地域農業」に対し、いち早く危機感を抱いていたかがうかがえます。

No.2 (二社) 四万十農産



地域の「最後の砦」として
「農地を守らな『ふるさとの風景』は一変する」。そう話すのは営農支援センター四万十株式会社、代表の熊谷敏郎さんです。
同センターは、平成17年に町とJAなどが出資し、大豆による転作拡大を目的に設立された協同運営組織です。
地域だけでは維持できなくなった農地を借り受け、飼料稲（※WCS）を中心に、大豆やシユウガなどを作

No.1

営農支援センター四万十(株)



「戻してくれ」と言われるまで
地域からの作業委託の要望は年々増加しています。ふるさとの風景や農地を守るために、今ある制度をフルに活用し、限られた人員と設備の中で、利益を生み出し経営しています。
WCSの収穫現場を取材して驚いたのは、その作業の速さと効率の良さです。2台の収穫機で勢いよく刈



収穫した飼料用イネは細断後、乳酸菌が自動噴霧され混合。高密度に圧縮・梱包し排出される。



地域を生かし守る農業戦略
「農業を通じて地域を守る」と鈴木さん。集落活動センター「仁井田のりん家」や影野小学校、そして地域と密に連携しながら、これからも影野校区の農業・農村の持続可能な仕組みづくりに挑んでいきます。

営農組織の連携で農地を守る
「『一集落農場方式』の集落営農組織では、この先もつと厳しくなるでしょう」。そう話すのは当法人で理事を務める鈴木信太郎さん。
高齢化が進み、集落営農組織の活動そのものが弱まる中、まずは小学校区内の営農組織で集合体を作り、地域で耕作できなくなった農地の受け皿になるよう設立されたのが始まりです。
現在、水稲だけで24ha。他にもシユウガ、ピーマン、ゆず、栗など圃場環境に合わせた農産物が四季を通じて生産されています。

り取り、4台のラッピングマシンでフィルムに梱包。トラックに積み込み、畜産農家へと運ばれていきます。そして休むことなく次の圃場へ。
それでも、作業委託の要望に応えられないケースも生じているそうです。「我々は後継者が見つかるまでの間、農地を預かって作らせてもらっているだけ」と熊谷さん。「ご家族の方や地域の方に作ってもらうのが、夢」だと話してくれました。
「貸した農地を戻して」と言われるその日まで、少数精鋭で農地を守り続けます。



排出されたロール状の稲は専用のフィルムで包み込み、密封。フィルムの中で乳酸発酵し、長期保存可能な飼料となる。

※WCS（ホールクロップサイレージ）
稲の穂と茎葉を根元から刈り取り、脱穀せずにそのままフィルムで密封し、乳酸発酵させた牛用の貯蔵飼料。



No.3

(一社)しまんと農楽里

担う責任と持続への課題
大正・十和地域の農業維持のため、平成27年度に設立された一般社団法人しまんと農楽里。
現在は受託事務のほか、「育苗施設を整備し、約4千枚の水稲苗を、地元農家へ供給しています」。
「苗を作るだけで助かる農家もいる」と代表理事の岡本順一さん。常任理事の大元学さんは、「地域農業を守る責任、使命感は感じるが現状は厳しい」とも言います。地域の現状に沿った営農の継続が求められています。



畜産農家の声

恒石畜産 代表 恒石 知則 さん(七里甲)

280頭の牛が喜ぶ——。品質改善で今や『WCS』は欠かせない!

水分量が多く、肉牛には不向きと言われていたWCSを、支援センターが作り始めた当初から導入しています。
初めは品質が悪く、牛が食べなかったり、下痢をすることもあって使うのをやめようと思ったこともありましたが。何度も支援センターの職員と勉強会や意見交換を重ね、今では品質も上等!牛も好んでよく食べる。やっぱり牛が喜ぶものを与えたいですね。
年間使用量も倍増して、今は欠かせない粗飼料になっちゃん。それに牛の堆肥もWCSの圃場の肥料にしゅき、まさに「耕畜連携」の好循環よ。

この笑顔と風景を未来へ。 「守る誇り」と「いただく感謝」。

私たちが目にする美しい景色や、子どもたちが食べる安全でおいしい給食は、当たり前ではありません。
だからこそ、農地を守る人々は、子どもたちの笑顔あふれる給食の光景を想像し、子どもたちもまた、地域の大人が多様なカタチで食と風景を守っている姿を想像する。
お互いに想像できた時、「守る誇り」と「いただく感謝」が今より少し増すのではないのでしょうか。



お問い合わせ先 / 農林水産課 22-3113